

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079100162		
法人名	有限会社 北村		
事業所名	グループホーム なかま		
所在地	〒839-0223 福岡県みやま市高田町岩津785	TEL	0944-22-6568
自己評価作成日	令和04年07月10日	評価結果確定日	令和04年09月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	TEL	093-582-0294
訪問調査日	令和04年07月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今まで暮らしてきた生活リズムを崩さず、人間らしく平等で自由に、家庭的な日常生活を継続支援し、残された能力を引き出し、ゆったりと落ち着いた、不安のない心で家庭とのかかわりも密にしながら、又地域の行事や、隣接する地域の人々との交流を深めながら過ごして頂く。小規模で介護の出来る、明るく、楽しいグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「なかま」は、田園風景が広がる自然豊かな環境の中に2004年3月に開設した定員9名のアットホームな雰囲気グループホームである。利用者や家族の希望で敷地内に枇杷やグミ、無花果、杏子等、実のなる木を植え、畑には、胡瓜、そら豆、葱、玉葱等多くの野菜が育ち、花壇には色とりどりの花が咲いて、花摘み、草取り、収穫等、コロナ禍で行動が制限させる中でも、利用者の日常は季節感に溢れ生き生きと過ごすことが出来ている。ホーム協力医による往診体制が整い、看護師を3名配置して医療体制の充実を図り、看取り支援にも取り組んでいる。畑で収穫した野菜を使って作る手作りの美味しい料理を提供し、踵あげ、歩行、立位訓練等のリハビリに励む毎日が利用者の生き生きとした笑顔に繋がっている。毎月送付する写真満載のホーム便りや小まめな電話連絡で利用者の暮らしぶりを家族に伝え、家族から多くの感謝が寄せられている、グループホーム「なかま」である。

ha		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない		
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない		
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない		
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11.12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない		
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない						

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	¥
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	やっとコロナが収束したので、地域のイキイキサロン等に参加し始めている。 コロナの為、花見や地域への外出は出来ていないが、徐々に以前のように外出したい	玄関や廊下に理念「地域社会と交流し、自分らしさを継続し、心より笑える生活」を掲示し、毎日目にする事で理念を共有している。自治会に加入して「いきいきふれあいサロン」に参加する等、地域密着型事業所として認知症高齢者が安心して暮らせるホームを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イキイキサロン等に参加 隣組の方にメロンの苗をもらい植えた	隣組との交流が深まり、地域住民の理解を得て、少しずつ地域との関係を築いて来ているが、現在、コロナ禍で地域の行事や活動は減っている中、「いきいきふれあいサロン」への参加や中学生の体験学習の受け入れ、近所の方々との日常的な交流等、地域との信頼関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	絵手紙もコロナの間は中止になっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	イキイキサロンの内容で、体操など体を動かす時は入居者に適しているが、口腔内の勉強会の時は不適など教えてもらい助かっている	利用者代表や家族代表、区長、民生委員、市職員の参加を得て運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。「なかま新聞」に沿って行事の説明を行い、コロナ対策について意見交換したり、介護保険課より情報提供を受け、出された意見や要望は検討し、ホーム運営や介護サービスに反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新等、レベルの変化が少ない方は継続にしてはと助言して頂いたりしている	高田町の3グループホーム管理者と行政職員、民生委員が集まり、高田町グループホーム協議会を設立し、年6回会議を開催し、それぞれの立場から意見や情報交換を行っている。運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの現状を伝え、質問や意見、情報提供を受け、協力関係を築いていたが、コロナ感染が広がり現在は中止状態である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず散歩の時等、時に玄関より出て田植えの様子を見たり、「早かった、あつという間に終わった」等話される サイドルールも四点施行する方は家族に了解を得ている	8時45分から9時15分に行われる夜勤者と日勤者の申し送り時に身体拘束規定の確認を行っている。身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束のない介護が出来ているかの確認をしながら利用者が安心して暮らすことの出来る環境整備に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常生活の中で言葉遣いも虐待に繋がること等にも注意し心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	¥
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	息子さんが後見制度を利用し入居前に契約された商品購入を断られたりした事もある	権利擁護に関する勉強会を開催し、制度の重要性を理解し、利用者や家族から制度についての相談があれば、内容や申請手続きの方法を説明し、申請機関に橋渡し出来る体制を整えている。以前、制度を活用していた利用者はいたが、現在はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、理解が難しい時等は丁寧に説明するよう心掛けている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最近入居された方は、花、ポール、塗り絵が好きで「母にピッタリです」と喜ばれたりと一層励みとなっている	職員は日々の関わりの中で、利用者の意見や要望を把握している。面会が制限される中、電話でコミュニケーションを取りながら家族の意見や要望を聴き取り、ホーム運営や介護サービスに反映させている。利用者の写真満載の「なかま新聞」を毎月家族に送付し、ホームでの暮らしぶりの理解を得ている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り時にはなるべく勤務希望を聞く為、出勤出来ない日はメモをつけて優先する等心掛けている	管理者は、朝の申し送りや日常業務の中で、気軽に職員の意見や提案を聴く機会を設け、出された意見はホーム運営や業務改善に反映させている。申し送りノートに利用者の変化や報告事項を記載し、職員間で毎日閲覧して情報の共有に取り組んでいる。	定期的に職員会議を開催し、職員が顔を合わせて意見交換をする場を設け、情報の共有と意識の統一を図る事を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の時は一生懸命働いて他の人にも協力し、互いに助け合って自ら働いてもらっている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	意欲がある方、仕事に対する情熱で、年齢や性別の区別はしていない	職員の希望休(月4日)や、それぞれの事情を組んだ勤務体制を確立し、働きやすい職場作りに取り組んでいる。また、資格取得のためのバックアップ体制を整え、職員が意欲的に働ける就労環境である。職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考えを優先して採用している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	一人の人間として尊重するように言葉遣いなどにも注意して接している	利用者の人権を守る介護の在り方を職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意して、利用者の尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。「いきいきふれあいサロン」に出かけ、認知症の啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	¥
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の能力や介護の力量に合わせて研修を受けてもらっている 伝達研修など行っている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高田町グループホーム連絡協議会もコロナ感染が拡大して現在中止しているが再開したい		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	畑仕事の好きな人、花が好きな人、それぞれの希望に沿えるよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居中に結核菌があることが判り専門病院に入院。そこで転倒した方が現在も入居希望が強く嬉しく思っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護の優先順位に沿っての介護に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いやじゃが芋の皮むき、ネギ揃え等色々話して、「こうしていた」等共感している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナにて窓越しに面会して頂いているので、とても難しいが連絡を密に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	¥
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	中学校の近所ということで、子供さんの名前を出して通われていた時の話題で懐かしんでもらっている	新型コロナウイルス感染症対策の為、現在、窓越しで面会を行っている。コロナの感染状況が下火の時には地域の「いきいきふれあいサロン」に参加している。親しい人との電話の取り次ぎや、話題に挙げて会話を楽しむ等、今出来る範囲で馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	廊下散歩の時、学校の先生であったことを利用して多くの方に参加してもらっている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	パーマ屋さんが娘さんなので、今もカットに来てもらっている 紹介もしてもらった		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	畑の好きな人、花が好きな人の為に、花壇を作って対応している	利用者とは話ししながら思いや意向を聴き取り、職員間で共有し、一人ひとりを尊重したその人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。花が好きな方の為に花壇を整備し、実の生る木を植えて枇杷や無花果、グミを食べる事を楽しみ、畑には季節の野菜を植えて、自分らさの継続と心より笑える暮らしを支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	学校の先生がおられ、掛け算などはされないが採点など動いてもらい、自尊心に繋げている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	女性ばかりなので、ニラ揃えやネギ揃え等全員にして頂き、多い時はスタッフももらって帰ってもらっている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、問題が生じた時はミーティングを開き全体で意見を出し合っている	ケアプラン作成時に担当者会議を開き、意見や要望を聴き取り、介護計画に反映させている。ADL状況を記録し、担当者会議の中で検討し、利用者本位の介護計画を半年毎に作成している。利用者の状態に変化があれば、介護計画をその都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	¥
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の些細な行動や言動も記録するようにし、申し送り時に報告して介護計画に生かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入床したり入眠している時以外は面会してもいいようにしているが、今はコロナの為窓越しの面会や携帯の動画を送ったりしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	玄関にいた時、隣組の方に冬瓜、メロンの苗を頂き、それを一緒に植えたりしている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	最近が高齢化したこと、家族が忙しいこともあり、全員訪問治療状態となっている	入居前に利用者や家族と話し合い、希望を優先して主治医を決めている。現在、全員が往診体制が整ったホーム協力医が主治医であり、24時間安心の医療連携が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	皮膚科や歯科等は受診してもらい、色々な対応をしている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本的に入院された時は頻回にお見舞いに行っていたが、今は地域連携室の方との連携を密にしている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルの指針などを作成して細やかに説明している	契約時に、看取りに関する指針を基に重度化や終末期の方針について説明し、利用者や家族の希望を聴いている。利用者一人ひとり条件が違う為、利用者の重度化に伴い、改めて意向を尋ね、方針を確認している。主治医と連携し、職員全員が一丸となって看取り介護に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	¥
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者が喉を詰まらせられたことがあったが、吸引などの説明や吸引の仕方、タッピング等の練習をしていたばかりだったのでそれが役に立った		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や水害などは消防団は消火のみで救出は庭の隅に寄っていると救出して頂く 水害はどこもいっぱいなので青葉の施設へ避難	防火設備業者の点検時に合わせて年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施し、通報装置や消火器の使い方、非常口、避難経路、避難場所を確認し、利用者を安全に避難誘導出来るように訓練している。非常時に備えて非常食の備蓄を行い、近くの消防団員や近所の職員、地域の方、系列施設との協力体制も築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人格者として尊重し、言葉遣い等も丁寧に心掛けている	利用者のプライバシーを尊重する介護サービスについて、職員間で話し合い、声の大きさや、あからさまな介護にならないように注意し、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護に取り組んでいる。職員は、経験豊富な人生の先輩である利用者から、色々な事を学び、利用者を敬う気持ちを持って、日々の暮らしを支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	庭に出る時や草取り等希望される時は、施行をもう止めようと言っても止められないので、1時間程されている時もある 曇りの日、且つ、夕食前30分程度にする		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	塗り絵が好きな方に、塗り絵やパズル等「これにしますか」と尋ねるようにしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	素敵な洋服を着ている方に、素敵ですねと褒めると、嬉しそうな顔を見せられる 「どちらを着ますか」と尋ねるようにしている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	じゃが芋の皮むきや食器洗い、食器拭きや台拭きなど、一緒に配膳もしている	調理担当職員が、庭の畑で収穫した新鮮な野菜を使った美味しい料理を提供している。利用者と職員と一緒にじゃが芋や玉葱の皮むきや葱揃え等の下拵えや配膳、後片付けを行い、お盆の迎え団子や干し柿作りにも取り組み、食を楽しむことが出来るよう支援を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	¥
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	97歳の方は、時々食事水分も摂られないことがある 甘くすると摂取されたり時間をずらすと食べられることもある		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、声掛けや促しによって施行される 口腔内を歯ブラシで綺麗にしている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ排泄表を作成し、3時間経っても施行されない方は誘導している 又、排便は一度長くゆっくり座ってもらい、自然排便を心掛けている	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。室内散歩でしっかり歩いてもらい、立位訓練の時間を設けて下肢筋力の低下を防ぎ、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日廊下運動をして腸運動を促したり、繊維食物を多く摂ったり、水分補給などの働きかけを心掛けている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は嫌いな方が多く、拒否されてもまた時間をずらして再度呼びかけている	利用者の希望や体調に配慮し、入浴帳を付けて確認しながら、基本的には週3回の入浴支援に取り組んでいる。入浴時には、全身観察を行い、湿疹や傷等がないか確認している。拒否される利用者には、時間をずらしたり、声掛けに工夫して対応し、無理な場合は、清拭や足浴に変更し、清潔保持に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を守り過ごしてもらう為に、昼間長時間の入床は避け、1時間程度にしてもらっている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用に対しては、カンファレンス時に話し合いの場を設け、観察を密にして対応し、何かある時はかかりつけのDr.に報告、連絡してアドバイスも受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	¥
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花が好きな方、塗り絵、ボールが好きな方、草取りが好きな方等色々あり対応出来ない時もあるので、草取り等は夕方時間外になる時もあるが満足されるので有難い		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの関係で、以前のように外出出来ず、イキキサロンもリハビリ体操的な体を動かすものには参加している	新型コロナウイルス対策の為、外出の機会は減っているが、感染の状況が下火の時には「いきいきふれあいサロン」にも参加している。玄関から田植えの様子を眺めたり、敷地内の畑や花壇の手入れや収穫を楽しむ等、戸外に出て気分転換出来る機会を設けている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方がいたが、男性の入浴介助者にお金を払って感謝されていたので、その都度家族に返金したことがあるが今はおられない		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日手紙を書いて苦情箱に投函したり、毎日長男さんが電話して来られている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を生けたり、トマトをベランダに置いて収穫したりしている	季節毎の手作りカレンダー、小物や生花を飾り、季節感や生活感を取り入れた家庭的な共用空間である。広い敷地の中に、無花果やサクランボ、アンズ等実の生る木を植え、畑には野菜を植え、花の好きな方のために花壇を造る等して、利用者がホームの中で、いきいきと楽しく暮らせる環境整備に取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	東窓から外を見たり、「田植えの早かった」等散歩中に団欒している 姿が見えず離院かと探すと、南の出口等に椅子を置いて座っている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は忘れていても、家具を見ると「ここは私の部屋」と言われ安心される	利用者が使っていた枕や布団を出来るだけ新調せずに持って来てもらうようお願いしている。長年愛用していたソファや筆筒、マッサージチェア等を家族の協力で持ち込んでもらい、利用者が自宅と違和感なく、安心して過ごせるよう支援している。また、換気や清掃をこまめに行い、利用者が安心して穏やかに暮らせる居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器洗いや食器拭き、台拭きやじゃが芋の皮むき等色々してもらっている		